分電盤の「点検商法」

【問】母の家に「大手電力会社から依頼されて分電盤の点検に来た」と事業者が訪問してきた。事業者は「分電盤の点検をしたところ長期使用していて、漏電の危険性があり交換する必要がある。商品代と工事費用で13万円になる」と勧誘された。母が私に電話で相談してきたので、その場で私が断った。

(40歳代女性)

～不安をあおる悪質事業者 地域の「組合」等に相談～

【答】分電盤は、屋内配線の安全確保等のためのブレーカー等が内蔵されており、一般的に玄関や洗面所等に設置されています。

事業者は訪問や電話で、分電盤の点検を持ち掛けてきます。電力会社やその委託会社を名乗って勧誘してくるなど、身分を偽っている事例もあります。消費者は信用して点検を依頼しますが、実際は無関係な業者であることに、契約後に気づくことがあります。

点検を実施した事業者は「分電盤は古いので交換した方がよい」「このままだと漏電し火事になる」などと不安をあおり、その場で分電盤交換の契約を持ち掛けます。

専門知識のない消費者には、実際の危険性や交換の必要性を判断することが難しく、不安になって冷静な判断ができないまま、事業者の言うことを信じて契約してしまいます。

しかし、後から家族に話したことなどをきっかけとして、交換の必要性や金額に疑問を抱きます。

事業者から分電盤の点検を持ち掛けられても、安易に応じず、相談事例のように周囲の人に相談したり、事業者を調べたりして慎重に対応しましょう。点検の結果、分電盤の交換が必要と言われても、その事業者の話だけを聞いて、その場ですぐに契約しないようにすることが大切です。

分電盤の状況を確認したい場合には、管轄の電力会社や地域の電気工事業工業組合等（奈良県電気工事業工業組合）に相談しましょう。そして、分電盤の交換を検討する場合は、複数の事業者に見積もりを取り、機能や価格を十分に比較したうえで契約しましょう。

事例のような点検訪問の事業者と契約してしまった場合でも、特定商取引法の訪問販売に該当する場合は、契約書面を受け取った日から8日以内であれば「クーリング・オフ（無条件解除）」できます。

契約を解除したい場合には、速やかにクーリング・オフを書面、または電磁的方法（メールなど）により通知しましょう。また、クーリングオフ期間を過ぎても解約できる場合がありますので、消費生活センターに相談しましょう。

分電盤の点検は、電力会社等が法令に基づき、4年に1回以上の頻度で無料で行われています。その点検日時は、事前に書面で案内されます。点検日時を電話で通知されることはなく、また、訪問した点検作業員が、その場で設備交換等の契約を持ち掛けることはありません。

法定点検の場合には、調査員証の携帯が義務づけられていますので、必ず調査員証の提示を求めましょう。

【筆者ひとこと】

分電盤は、経年劣化により故障する可能性があり、火事等の危険性もあります。長期間使用で経年劣化が心配な場合は、電力会社等、地域の電気工事業工業組合等に相談しましょう。（県消費生活センター）